栄養学・食糧科学の発展を担う
日本栄養・食糧学会の活動

公益社団法人日本栄養・食糧学会代表理事・会長　芦田　均

日本栄養・食糧学会（以降、本学会）は、栄養学と食糧科学の進歩をはかり、国民栄養の向上に寄与することを目的に、一九四七年に設立。戦後の栄養事情を鑑みて、一九五一年に日本医学会総会に参加して以来、日本医学会第十四分科会として、栄養学・食糧科学を医学的観点からとらえて、国民の健康維持や健康寿命の延伸に資する情報の発信をしてきました。

本学会は二〇二二年に創立七十五周年を迎え、同年六月に神戸で行われた第七十六回大会の際に記念式典と記念祝賀会が開催されました。記念式典では関連学会（日本栄養改善学会、日本糖尿病学会、日本動脈硬化学会、日本ビタミン学会、日本農芸化学会）のご代表から、記念祝賀会では当時の日本医学会会長 故 門田守人先生も駆けつけてくださり、ご祝辞を賜りました。また、本学会創立七十五周年記念として二〇二三年十二月に『栄養・食糧学が拓く未来のために―学会の歩んだ軌跡と会員からのメッセージ―』が建帛社から上梓されました。ここには五十周年以降、四半世紀の記録や会員からのエッセイが記載されています。会員以外の皆様におかれましても、これまでの栄養学・食糧科学の進展を知るうえで貴重な資料となっていますので、お手に取ってご覧いただければ幸甚です。

さて、私は吉田博 前会長の後を継ぎ、二〇二四年五月の第七十八回大会の総会において本学会代表理事・会長を拝命いたしました。今後は創立百年までの次の四半世紀、ひいてはその先の未来を見据えた基盤構築を行っていく所存です。

また、本学会は「栄養学の学術としての質を高め、その成果をもって、少子超高齢化が進展する日本社会において、人々の健康寿命の延伸および生活の質の向上に寄与すること」を目的として設立され、栄養学にかかわる十六の学術団体からなる日本栄養学学術連合の世話人をしています。したがって、本学会は日本の栄養学の発展を担ううえで中核となる学術団体として、栄養学・食糧科学の発展に寄与してまいります。

いうまでもなく、学会は学会員の活動の場ですが、近年多くの学会で会員数が減少してきています。これは少子超高齢化社会を迎えている日本社会の宿命と思われますが、地道な努力で会員数の減少を食い止めていきたいと考えています。

さらに、本学会は女性会員が約半数を占めており、他学会と比べて女性会員の割合が高いという特徴があります。しかし、理事や各種委員会委員の女性比率が低いこともあり、二〇二四年にダイバーシティ推進委員会をつくるとともに、一般社団法人男女共同参画学協会連絡会にも参画し、今後は、女性理事や各種委員会の女性委員の増加をはかってまいります。

次に国際交流の強化についてです。現在、韓国食糧栄養学会（KFN）および台湾栄養学会（NST）との合同シンポジウムを双方で定期的に開催して関係を深めていますが、他国との新たな連携も進める所存です。二〇二二年の第二十二回国際栄養学会議がつい先日のことのように思えますが、二〇二五年八月二十四日からパリで、第二十三回IUNS-ICN国際栄養学会が「Sustainable Food for Global Health（世界の健康のための持続可能な食糧）」をテーマとして開催されます。本学会では、国際交流の一環としてシンポジウムを二つ開催するべく準備を進めているところです。

ところで、近未来に人類が宇宙に行くことが計画されていることはご存じかと思います。アルテミス計画では月の軌道上の宇宙ステーションと月面基地をつくり、火星の有人探査の実現を目指しています。このため、現状では宇宙空間での健康・栄養などの研究開発がより求められています。これを受けて本学会では、専門人材の育成や「宇宙食健康認定制度」と称する資格制度を設けるための委員会を立ち上げており、本学会が認定機関を担うべく内閣府と協議しながら事業を進めています。また、宇宙食は、栄養面や保存のための包装面などで災害時の救援食と関連するともいわれています。昨年の第七十八回大会では、能登半島地震の発生により、急遽、災害栄養に関するシンポジウムも開催しました。最近、激甚災害が増えており、災害栄養についても進めるべき課題と認識しています。

以上のような観点から、日本栄養・食糧学会では未来の栄養学・食糧科学の発展を担う活動を続けてまいります。

（武庫川女子大学教授）

発行所　東京都文京区千石4丁目2番15号　〒112-0011
株式会社 建帛社
発行人　筑紫和男
電話 営業部（03）3944-2611
編集部（03）3944-2613
FAX　（03）3946-4377
https://www.kenpakusha.co.jp/
E-mail info@kenpakusha.co.jp
©建帛社，2025

新年あけまして
おめでとうございます

本年も宜しくお願い申し上げます

昨年は元旦の能登半島地震から痛ましいニュースが続きました。復興がままならぬ中、九月には集中豪雨が発生し、被災された方々には改めてお見舞い申し上げます。一方、スポーツでは明るいニュースの多い一年でした。パリオリンピック・パラリンピックでは日本は過去最多のメダルを獲得、野球のメジャーリーグでは大谷翔平選手が50HR-50盗塁の偉業を成し遂げ、ナ・リーグMVPにも選出され、日本中が大いに沸きました。今年も明るいニュースで日本が活気づくよう願ってやみません。

弊社では昨年、新刊二十八点、改訂版十五点を発行し、一昨年に比べて新刊が約十点増えております。リハビリ分野における言語聴覚士養成向け教科書を全面的に刷新したことが大きな動きとなりました。今年は、昨年十月に「日本人の食事摂取基準（二〇二五年版）」が公表されたことを受け、栄養関連の教科書は大幅に見直しが必要となります。早いものでは今年度の教科書から対応できるよう予定しています。関連書籍をご執筆いただく先生方にはお力添えいただけますようこの場を借りてお願い申し上げます。

近年、先生方から「学生の学力が低下していて教科書を読み解けない」という声を聞くことが増えました。「令和五年度国語に関する世論調査」（文化庁）によると一か月に読む本の冊数（雑誌や漫画は除く）は、「読まない」が過去最高の六二・六％（五年前調査時、四七・三％）となっています。読書量の減少理由は「情報機器で時間が取られる」（四三・六％）が最も高く、隙間時間にはすぐにスマホでSNSやゲームに興じることが多くなり、腰を据えて読書をする習慣がなくなってきたのでしょうか。

高等教育においては、著作権法の改正により二〇二〇年度から授業目的公衆送信補償金制度が開始され、補償金を支払うことで著作物をスキャンして授業資料として学生へ配信できるようになりました。しかし「著作権者の利益を不当に害する」場合は例外です。昨今、本制度の利用法が専門書出版社の存続を脅かす状況が懸念されています。教科書・専門書は、当該科目修得のために編著者および出版社によってストーリーのある一冊として大切に編纂されます。それらの全ページまたは大部分をコピーすることは、著作権法違反となり得る行為です。専門書出版社はごく小さな規模の得意領域を有しており、仮にその社が廃業すれば、出版物として発行していた過去の資産やノウハウが散逸し、該当領域の学術の蓄積が失われてしまいます。

高等教育は、社会人として自立していく前の最終学府です。学生減の現状を含め、指導に苦慮する先生方の姿をお見受けすることが多くなりました。専門書出版社として、学生が正しい知識と教養を身につけて社会で活躍することができるような専門教科書づくりを心がけてまいりますことと同時に、研究者の成果の蓄積の場として、先生方と共に歩んでいければ幸いです。

専門書出版社の果たす役割

株式会社建帛社社長　筑紫和男

日本人の食事摂取基準（二〇二五年版）が公表

「日本人の食事摂取基準」は二〇〇五年以降、五年ごとに改定されており、昨年十月に厚生労働省より二〇二五年版として策定検討会報告書が公表された。

二〇二五年版は、今年度から取り組まれている健康日本21（第三次）の健康・栄養政策を踏まえた内容となっている。この一環として、各論三節に生活機能の維持・向上の点から骨粗鬆症が加わり、骨粗鬆症の発症予防・重症化予防として、カルシウム、ビタミンD、たんぱく質などの摂取量について解説している。

また課題として、今回示された基準値と日本食品標準成分表二〇二〇年版（八訂）に基づき栄養計算した値を比較する場合、測定法の違いによる誤差が発生することがあるため注意が必要とされている。今後、測定技術の進歩により各指標策定に生体指標（血液や尿などから得られる物質）の有効活用の検討が示された。

新刊専門書

プレシジョン栄養学
―データ駆動型個別化栄養学の社会実装に向けて―
日本栄養・食糧学会　監修
小田裕昭・田原　優・園山　慶　責任編集
A5 上製 288頁 5280円（定価・予価は全て税10%込の表示です）

国際栄養学
―グローバルな栄養課題とその対策―
村山伸子・五味郁子・坂元晴香・須藤紀子・水元　芳　編著
B5 272頁 3960円

おいしいたまごのはなし
クッカリーサイエンス012
日本調理科学会　監修
峯木眞知子・小泉昌子・設樂弘之　共著
四六 144頁 カラー口絵2頁 1870円

新たな必須脂肪酸ペンタデカン酸
―その多様な生理機能と生活習慣病の予防―
彼谷邦光　著
A5 128頁 2420円

栄養・食糧学が拓く未来のために
―学会の歩んだ軌跡と会員からのメッセージ―
（公社）日本栄養・食糧学会　編
A5 上製 274頁 3850円
会員からの寄稿を収載した「エッセイの部」と、活動記録等を記した「歴史の部」から75年間を振り返る。

2025年1月中リリース!!
日本人の食事摂取基準（2025年版）対応の最新版
Excelアドイン 栄養プラス® Ver 2.0
定価　30800円
髙田和子・石田裕美・石原淳子　監修
［Ver.2.0からの新機能］
○食品画像・料理画像を選択ダイアログに掲載
○食物繊維の分析法に応じた基準値を選択可能
○栄養成分表示用の成分項目プリセット　など

「栄養プラス®」オプションソフト
食物摂取頻度調査票FFQ NEXT Ver 2.0
定価　8800円
国立がん研究センター　著作　石原淳子・髙地リベカ　監修
・栄養素等摂取量の多少による集団内でのランク付に最適。
・次世代多目的コホート研究（JPHC-NEXT）にて開発された調査票をソフト化。
・紙媒体、Web回答フォーム、エクセルシートといった、多様な方法で回答収集が可能。

栄養における分子栄養学

叶内宏明

食べること、料理をすることが趣味である私にとって、栄養学を教えることはしばしば自己矛盾を生じる。「おいしい食事」はオイリーで、しっかり味付けがされていて、健康的ではないことが多い（薄味でおいしい料理も当然ある）。自身で調理する際、極力薄味に努めているつもりであるが、自宅で減塩についての講演準備をしている際に小学生の息子と妻から総ツッコミされたばかりである。

栄養相談は日本人の食事摂取基準を念頭にした説明となる。しかし、適切な基準に基づいた食事であっても、期待するような改善が得られない場合がある。その理由の一つに、各個人の遺伝子の多様性が影響している可能性が考えられている。これは、分子栄養学がかかわる領域であり、各個人に見合った個別化栄養、精密栄養といった、いわゆるプレシジョン栄養学の基盤となる。不健康な食事だと指摘を受けそうな私ではあるが、現在のところ生化学検査値に際立った異常はない。「これくらいは個人差の範囲内で大丈夫」と管理栄養士にはあるまじき屁理屈を考えながら好きな料理を楽しむ。

栄養とは、食物成分が消化吸収され、体内で様々な代謝を受けて排泄されるまでの一連の現象である。その現象によって生体機能は維持されている。この栄養は様々なタンパク質が適切な場所で、適切な時間に、適切に活性化することで成り立っている。すなわち、栄養を理解するためにはタンパク質を理解する必要がある。

タンパク質の理解とは、遺伝子情報をもとに合成されるタンパク質の発現調節、産生されたタンパク質の構造および機能を決定する様々な修飾がどのように制御されるか、タンパク質分解の制御などを理解する必要があり、分子生物学の知識が求められる。

私はビタミンB_6が高齢者の健康に関係するかについて研究を進めている。免疫機能にも関与するB_6は、加齢に伴い血中濃度が低下することや、フレイルや認知症では血中濃度が低いことを、ヒト観察研究から明らかにしている。しかし、観察研究であるため考察では因果関係やメカニズムについては推測でしか論じられずつらい状況である。また、加齢に伴い血中濃度が低下する原因も不明なままである。B_6は摂取する量が増えれば血中濃度は増加するが、個人によって摂取量と血中濃度にばらつきがあり、相関性が低い。これらの原因も依然不明である。B_6の吸収や代謝にかかわるタンパク質に遺伝子多型があると推測し、分子栄養学的観点から研究中である。

分子生物学にかかわる分析技術の進歩によって生命現象の理解が加速している。まだ当分先のことではあるかもしれないが、どのように栄養が制御されているかについて完全に理解されるうとワクワクする。

分子栄養学の理解が進み、精密栄養が展開されることは「栄養の力で人々を健康に、幸せに」の基盤の一つになるだろう。一方で私の食生活にはさらに矛盾が生じ、悩む自身の姿を容易に想像できる。欲を出しすぎではあるが、分子栄養学の知見が、おいしさと健康を両立する食事の提案にもつながることを願う。

（大阪公立大学教授）

能登半島地震後の学校再開に向けた取り組み

仁八潔

令和六年一月一日十六時十分に発生した能登半島地震は、尊い人命、生物や無数の財産を奪った。震災後を回顧すると、県立高校の校長（当時）として学校再開に向けた準備や再開後の取り組みにより、困難を乗り越えたことが思い出される。

地震直後、大津波警報が発令される中、私は、妻に両親を任せ、自宅玄関のがれきをかき分け学校へ向かった。急場しのぎに学校を避難所として開所し、高齢の方、障がいのある方、小さな子ども連れ家族など、百三十名を超える人々を受け入れた。六日間の運営期間を経て、幸い一人も体調不良者を出さずに閉所することができた。

一月五日、多くの教職員が勤務できない状況ではあったが、私は出勤した教職員に今後の見通しを示した。共通理解・共通行動を図ることを目的に「学校再開に関わる連絡事項」を作成し、職員室で二十分間説明。さらに、学校再開のための校舎内外の復旧作業を急ぐ一方、震災による生徒の不安の軽減を目的に、全生徒対象に「個人面談」の計画を立て、研修会を実施した。研修に参加した教員の表情や態度からは、個人面談に向けての不安が解消され、自信をもつことができたように感じられた。さらに私は、学校再開日前日に、五時間かけて生徒の避難所先すべてを訪問した。生徒と直接面談し、声をかけ、心理面、生活面の実態把握に努めた。皆、明るく接してはくれたが、中には限られた居住スペースにより安眠できない生徒がいることを知った。その際は、担任にすぐ連絡し、生徒の状況を説明するとともに、あたたかな言葉がけ、生徒の願いや思いをていねいに聴くことを助言した。

学校再開日の一月十五日、雪が降る朝、私をはじめ、教職員が生徒玄関前で登校してきた生徒一人ひとりに声をかけ迎えた。保護者の自家用車、徒歩、自転車など、移動手段は様々であったが、三〇一名中四十七名の生徒が登校した。その日は、ロングホームルーム、個人面談、授業が行われた。全生徒対象の個人面談は継続して毎日実施、教員が生徒の思いや願いを聴くことに努めた。これらにより、生徒は安心して学校生活を送ることができたものと感じている。学校再開後二週間は、毎日学年団の情報交換後、学年主任と管理職による生徒の情報共有と生徒指導にかかわる意見交換を行った。徐々に落ち着きを取り戻しつつ、次年度に向けた準備を進め、学校評議員会（全委員へ資料持参により説明）で、令和六年度の学校経営方針が全会一致で了承された。また、三月末には学校管理計画や学校要覧、中学生配布用パンフレットなどの作成がほぼ終了した。

結びとして、災害時における校長の適切な判断と行動はきわめて不可欠なことである。それと同時に、教職員、生徒の状況を正確に把握し、心のケアをはかる。さらに、教職員に繰り返し未来を示し、労い、励ましながら指導や助言を行うことはとても大切であった。同年三月には震災対策を徹底し、重要な節目の行事である「卒業式」と「入学試験」を無事終えることができた。

（金沢学院大学教授）

美術教育における「感性」の育成

村上尚徳

AIなどの活用が一層進む中で、これからの社会においては人間ならではの豊かな「感性」の育成が求められている。

現行学習指導要領の基になった、平成二十八年十二月の中教審答申において、「変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができること」が学校教育を通じて育てたい姿として記されている。

また、芸術教育においては、「豊かな感性や想像力等を育むことは、あらゆる創造の源泉となるものであり、芸術系教科等における学習や、美術館や音楽会等を活用した芸術鑑賞活動等を充実させていくことも求められる」と述べられている。

これらを踏まえて、中学校美術科の学習指導要領では、教科目標に「～感性を豊かにし～」とあり、感性を育成することが美術科の大きな役割となっている。

一方、絵を描いたり、ものをつくったり、作品を見たりするだけで本当に感性は育つのか？　という疑問の声も聞かれる。

「感性」という言葉は様々な分野で使われている。中学校美術科では「様々な対象や事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力」と定義されており、自然物や人工物なども含めた形や色彩などの造形的な視点に関する感性が中核となっている。

美術の学習で感性を育成するためには、描くこと、つくること、見ること、を通して造形を捉える多様な視点をもたせることが大切である。例えば、校庭に生えている木々がある。多くの生徒はこの木々を普段見慣れているせいか、あらためてよく見ようとしない。しかし、そのような見慣れた風景の木々も、新緑の季節には緑のみずみずしさ、雨上がりには夕日に照らされた葉の輝きなど、季節や時間帯、天候などで表情が変わり、新鮮な美しさなどが感じられる。風景画を描くときに単に風景を写しとるのではなく、例にあげた視点に気付かせるような言葉がけをし、同じ場所でもそのときによって見え方が違うことを意識させることが大切である。

また、絵画を鑑賞する際には「なぜ平らな画用紙に描かれた絵から奥行きを感じるのか」と問うことで、「光と影により、奥行きや立体感が感じられる」「遠くの山の緑は青みがかっている」などの造形的視点に気付くことができる。感性を豊かにするためには、多角的な視点をもって対象を捉えるアンテナを豊富にすることが大切であり、視点があれば見過ごしていたことも目にとまり、様々な感じ方ができるようになる。

朝、目を覚まして夜寝るまでの間に目に映る自然物や人工物などの多くの造形。それらを豊かに感じとる「感性」を育成するためには、単に描いたりつくったりすることに重点を置くのではなく、これらの活動を通して、造形に対しての視点の多様なアンテナを立てていくことが必要である。

（元環太平洋大学副学長）

教科書採用特典として図表データ等がダウンロードいただけます

対象書籍を20部以上ご採用の先生方に向け、特典として教科書中の図表データをダウンロードいただけるようになりました。当社ＨＰよりお申し込みください。

〈対象書目〉Ｎブックスシリーズ、カレントシリーズ、クリア言語聴覚療法シリーズ、特別支援教育免許シリーズほか

＊対象書籍は今後も拡充してまいります。

食品・栄養

新刊教科書

Ｎブックス
スポーツ栄養学　髙田和子　編著　B5 160頁 2530円

健康管理概論　香川靖雄　監修　松本泉美・吉澤剛士　編著　B5 208頁 3080円

分子栄養学　叶内宏明・山内明・竹中重雄　編著　B5 200頁 3190円

公衆栄養学・栄養疫学実習　石原淳子・高地リベカ　編著　B5 168頁 2860円

統計情報処理入門　緒方裕光　編著　B5 144頁 2750円

現代食文化論　小川聖子・野林厚志　編著　B5 192頁 2750円

改訂教科書

日本人の食事摂取基準（2025年版）に対応した改訂版

Ｎブックス
六訂 **公衆栄養学**〔第4版〕　井上浩一・小林実夏　編著　最新刊　B5 232頁 3080円

改訂 **応用栄養学実習書**〔第3版〕―PDCAサイクルによる栄養ケア―　柳沢幸江・松井幾子　編著　最新刊　B5 192頁 2750円

在宅、施設、病院で応用できる栄養管理プロセス〔第2版〕　石長孝二郎・片桐義範　編著　最新刊　B5 180頁 2970円

管理栄養士講座
三訂 **公衆衛生学**〔第5版〕　伊達ちぐさ・松村康弘　編著　B5 288頁 4400円

食べ物と健康
三訂 **マスター食品学Ⅱ**〔第2版〕　小関正道・吉川秀樹　編著　B5 184頁 2970円

四訂 **応用栄養学実習**〔第3版〕―ケーススタディーで学ぶ栄養マネジメント―　五関正江・小林三智子　編著　B5 216頁 3190円

四訂 **マスター栄養教育論**　佐藤香苗・安達内美子　編著　B5 192頁 3080円

フローチャートで学ぶ
改訂 **栄養教育論実習**〔第2版〕　橘ゆかり・森美奈子　編著　B5 104頁 別冊40頁 2640円

近刊案内

栄養疫学―食と健康のデータサイエンス―　栗木清典　編著　B5 176頁 予価 2970円

99項目でマスター 生物・化学　山本祐司・大石祐一　編著　B5 208頁 予価 2860円

新調理システム対応
給食経営管理論実習・演習　大原栄二・近江雅代　編著　B5 160頁 予価 2530円

食品開発論　鈴木靖志　編著　B5 160頁 予価 2530円

（令和7年1月～4月刊行予定。予価、頁数等は変更する場合がございます。）

［日本人の食事摂取基準（2025年版）に対応した改訂版］

Ｎブックスシリーズ　各巻B5判

六訂 **公衆衛生学**〔第2版〕　後藤政幸・田口良子　編著　248頁 予価 3300円

六訂 **応用栄養学**　麻見直美・大和孝子　編著　272頁 予価 3630円

臨床栄養学概論〔第3版〕　渡邊早苗・本間和宏・佐藤智英　編著　184頁 予価 2640円

五訂 **臨床栄養管理**　寺本房子・調所勝弘・恩田理恵　編著　280頁 予価 3630円

新版改訂 **給食経営管理論**　朝見祐也・名倉秀子・松崎政三　編著　248頁 予価 3300円

三訂 **給食の運営**　長田早苗・大原栄二　編著　176頁 予価 2640円

子どもの養育・保育の質の向上と次世代の保育

寺見陽子

合計特殊出生率が一・二〇と過去最低となった（厚生労働省、人口動態統計、二〇二三）。このような中、こども家庭庁は、こども基本法を基にこども大綱を策定し、こども未来戦略やこども・子育て支援加速化プランなどによって、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、次元の異なる少子化対策を展開している。ここでは、子どもの権利を保障し、最善の利益を追求するとともに、貧困や格差のない良好な成育環境を確保し、すべての子どもの幸せな成長を保障していく方針が示されている。

これを受け、認定こども園や保育所では、保育の充実はもとより、地域の身近な「かかりつけ相談機関」として、さらには保護者の多様な働き方やライフスタイルに関係なく保護者の子育てを支援する機関としての役割を担うことになった（こども誰でも通園制度）。

このように保育が多機能化する今日、子どもの健全な発達を保障するために、保育者が保護者といかに連携し、家庭養育と保育の質を高めるかが重要な課題である。特に、育児への不安や負担感、家庭養育の影響が大きい三歳未満児の保育や保護者支援の在り方を再考する必要がある。千葉大学の砂上史子教授らの論文では、一、二歳児の保護者の育児負担感は養育態度の適切さ、社会情動的能力（忍耐力、自尊心、社交性など）に影響し、保護者と保育者の関係性が良好だと、保護者の育児負担感が軽減し、養育態度の適切さが向上する可能性があることを報告している。

一方、経済協力開発機構（OECD）は「保育の質」を、子どもたちが心身ともに満たされ、豊かに生きていくことを支える環境や経験であると定義している。さらに、①構造の質、②プロセス・相互作用・実践の質、③子どもの育ちと学びの姿（outcome）の質、の五側面を示し、保護者と保育者との信頼関係がこれらの向上に寄与するとしている。

筆者が〇、一、二歳児をもつ保護者と担当保育者を対象に行った調査では、園で行われる保護者支援は、両者との信頼関係が保護者支援の成果を高めるとともに保護者のイライラ感を低減させていた。それが、子どもの気持ちに共感すること、子どもに対してのわかりやすい言葉がけを促し、保護者が育児における自信を高めていた。同時に、子どもの言語発達にかかわる保育内容を通して、保育の構造の質とプロセスの質に影響し、子どもの社会情動的能力の発達にも良好な影響を与えていた。

これからは、保護者を保育に巻き込んで、一緒に育児や保育をする観点が求められるのではなかろうか。子育て・子育ちの本質を失うことなく、子どもの保育をマネジメントし、保護者には必要なときに必要な支援が保育の専門的知識や技術をもって提供できるような、これからの時代に求められる次世代の保育を模索していきたいものである。

（大阪公立大学大学院客員研究員）

持続可能で健康的な食事のゆくえ

野林厚志

二〇一九年の一月に英国Lancet誌に掲載された、「人新世（ひとしんせい）の食事：持続可能な食料システムからの健康的な食事に関するEAT-Lancet委員会報告」という論文は、来たる百億人の地球人口を想定し、人類、地球ともに健康で持続していくための「理想」の食を一日の摂取カロリー二五〇〇kcalに設定し、提示したことで話題を呼んだ。

SDGsが世界の課題として認識されている中、健康を人類だけでなく地球環境という視点から考え、よい食事を追求していこうとする第一線で活躍する研究者たちの提言には大いに賛成した。一方で、論文の筆者らが中心となって構成された委員会がWebサイトで示した未来の食事のメニューにはやや違和感を覚えた。見た目も内容も欧米で摂る食事の雰囲気が強く、和食や筆者が愛する台湾の小吃（シャオチー）の趣は感じられなかったからだ。世界中の人々の食事を知り、その環境の中で維持できる多様な食材を提案する努力がもっとあってもいいはずであると感じた。

その後、新型コロナウイルス感染症の大流行（二〇二〇年）、ロシア・ウクライナ戦争（二〇二二年）、ガザ・イスラエル紛争の激化（二〇二三年）など、世界は大きな変化に見舞われた。これらの出来事は食料、燃料、肥料の不安定な供給や価格の高騰を引き起こし、食料システムの不公平や不公正は増大したように思われる。

こうした状況の中、EAT-Lancet委員会は20委員会に進化し、二〇二二年から二〇二三年にかけて、食料システムにかかわる生産者、調理者、消費者の様々な声を取り込み、新たな食料システムとは何か、その条件や課題を抽出する議論を進めた。二〇二三年七月に報告されたレポート「健康で持続可能かつ公平な食料システムの未来を形づくる世界の声」の内容は当たり前のように思えるものも少なくないが、世界中から集められた声に基づく結果はより説得力があった。

参加者からは、個々の状況が大きく異なる可能性があることが指摘され、特に多くの地域では、健康的で持続可能な食品は、不健康で持続可能でない食品に比べて高価であるという声が聞かれた。手頃な価格と食料へのアクセシビリティが確保されない限り、二〇一九年のEAT-Lancetの報告書が北半球中心であると受け取られかねないという懸念はまったくその通りだろう。

様々な意見、提言の中で、筆者が特に興味深かったのは、健康的な食事は共同体や社会と関連しているとされたことであった。他者と食事を共にすることは、つながりを育むだけでなく、より健康的な食習慣を促進するためにも重要であると考えられ、一人で食事をするよりも、他者と食事を共にする方が、健康的な選択肢を選ぶ可能性が高いという意見は、人類の食が生態学的な適応手段だけでなく、社会文化的な存在であることをあらためて認識させてくれた。

一つの生物種ホモ・サピエンスとして生存していくために必要な食は理論的には大きく変わらない。一方で、時代によって変化し、地域的な多様性をもつ人類の社会や文化の中にある食を学び、考えていくことが今後、ますます重要となるであろう。

（国立民族学博物館教授）

英国の階級社会と研究を育む精神

小西香苗

現在、英国サウスサンプトン大学にて研究留学をする機会をいただいている。英国に暮らし、日々、歴史や文化を感じながら研究生活を送る中で、なんとなく感じるようになったことがある。それは、英国が歴史的な階級社会であるということである。最初は英語の発音やフレーズの使い方が、上流階級で使われるものと、労働者の街マンチェスターなどで使われるものが異なるということから感じはじめた。さらには、同僚が英語のアクセント、服装や通った学校、マナーなどといった態度、行動様式で階級がわかるという話をしてくれた。

日本では、社会的格差をなんとなく感じながらも自分や周囲の人々を明確な階級で捉える意識はなかった。しかし、ここ英国では無意識的にも意識的にも「階級意識」が存在し、英語を話すこと自体がそれを表明することになっている。「健康格差」も研究テーマとしてきた私にとって、これは単なる経済格差や教育格差以上に根深いものを感じ、階級社会の上に成り立つ健康格差と英国社会がどのように向き合っているのかも気になってきた。

歴史的にみても、貴族層や経済的な権力をもつ者が、貧しい人々へ教育や生活保護を行ってきていた。これは、貴族など上流階級の人々が政治的主権者となっており、社会の秩序維持に対して責任を負っていたからである。そう考えると、「ゆりかごから墓場まで」といわれる社会保障制度、教育費や医療費の無料、年金制度などが自ずと理解できる。日本では希薄な、献金やチャリティーなど慈善活動のような社会活動もまた、富める者が貧しい者へ手を差し伸べる精神の表れとして定着してきたのであろう。その延長として、社会貢献活動であるボランティアとその精神も育まれてきているように感じる。

これまで、日本で行われていないような国際的共同研究が盛んに行われていることに対して、日本の研究が何だか国内志向で少し世界に後れをとっているような気がしていた。だが、英国での研究生活の中で、歴史的な精神の違いによるところも大きいのではと考えるようになってきた。

アフリカ諸国やインドなど低・中所得国に出向いての積極的な調査研究、地域における健康弱者に向けての調査研究、ひいては自治体と連携した最貧層に対する予防的な社会実装研究など、たくさんの研究やプロジェクトがより健康的な社会構築のために行われている。この背景には、単にかつて植民地であったからだけでなく、先にも述べた富める者が手を差し伸べる慈悲の精神や社会秩序の維持といったことが関係しているのかもしれない。また、研究へ協力する一般住民の方々の積極的な協力姿勢も日本とは異なる。ここにもボランティア精神の「誰かの役に立ちたい」との思いを感じる。

英国の階級社会は埋めようのない健康格差をも生んでいる。その中で、社会の底辺にいるアフリカ、インドなどからの移民を含む労働者階級や最貧国への積極的な健康アプローチをすることで、この埋めようのない健康格差と向き合い、先進国として何とか健康で文化的な国であろうとしているのかもしれない。

（昭和女子大学准教授）

近刊
エネルギーソーリズムの新機軸
千葉千枝子　著　A5判／200頁　予価3850円

アフターコロナの状況を踏まえた最新の視点から観光経営学を学ぶ入門テキスト!!
観光経営学入門
千葉千枝子　編著
B5判／152頁　2530円

カレントシリーズ　各巻B5判
三訂 社会・環境と健康：北田善三・須崎　尚　編著　216頁 予価2970円
公衆衛生学〔第2版〕
改訂 食べ物と健康1：食品の化学と機能〔第2版〕　青柳康夫・津田孝範　編著　216頁 予価2970円
改訂 公衆栄養学〔第4版〕　由田克士・荒井裕介　編著　224頁 予価3080円
三訂 給食経営管理論　松井元子・冨田圭子　編著　256頁 予価3740円
管理栄養士講座
四訂 健康・調理の科学〔第2版〕　大越ひろ・高橋智子　編著　B5　216頁 予価3300円
三訂 スタディ応用栄養学　東條仁美　編著　B5　232頁 予価3300円
改訂 ライフステージ栄養学　稲山貴代・小林三智子　編著　B5　240頁 予価3520円
新訂 栄養教育・指導実習　関口紀子　編著　B5　136頁 予価2420円
三訂 マスター栄養教育論実習　佐藤香苗・安達内美子　編著　B5　152頁 予価2640円
六訂 臨地実習ガイドブック　前田佳予子・岸本三香子　編著　A4　128頁 予価未定
健康づくりの栄養学〔第4版〕　小林修平　編著　B5　144頁 予価2640円
改訂 調理学　日本フードスペシャリスト協会　編　A5　184頁 予価2310円
五訂 食品の官能評価・鑑別演習　日本フードスペシャリスト協会　編　A5　288頁 予価2640円
2025年版 フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集　日本フードスペシャリスト協会　編　A4　100頁 別冊16頁 予価1430円
2025年版 栄養士実力認定試験過去問題集　全国栄養士養成施設協会　編　A4　96頁 別冊20頁 予価1320円

新刊教科書
教育・保育ほか
教職ライブラリ 教育原理　佐藤　環・菱田隆昭　編著　B5　160頁 2530円

コンパスシリーズ　各巻B5判
保育の心理学　寺見陽子　編著　168頁 2310円
身体表現―動画で学ぶ表現遊びの魅力―　岡澤哲子・遠藤　晶　編著　136頁 2200円

改訂教科書
保育者が学ぶ 改訂 子ども家庭支援論　植木信一　編著　A5　176頁 2090円
三訂 はじめて学ぶ社会福祉　小野澤昇・島田　肇　編著　A5　208頁 2200円
生活支援の基礎を学ぶ―介護・福祉・看護実践のための家政学―　奥田都子　編著　B5　184頁 2750円
ICT×保育を考える 保育内容総論　香曽我部琢・駒久美子　島田由紀子　編著　B5　136頁 2090円
なぜからはじめる カリキュラム論　中原朋生・池田隆英　楠本恭之　編著　B5　176頁 2310円

「連携」と「コミュニケーション」

緒方祐子

医療や療育などの分野において、「多職種連携」の重要性が啓蒙されている。言語聴覚士の領域においても、多職種間、施設間や言語聴覚士間の「連携」は対象患者への言語聴覚療法を行う際のキーワードとなっている。言語聴覚療法は、言語発達障害、吃音、構音障害や失語症などの言語病理学的診断名にて施行される。それぞれの言語障害の問題は多岐にわたり、個別に様々な背景や要因があるため、言語聴覚士単独またはひとつの施設で解決できないものもある。そのため、連携は欠かすことはできず、リハビリテーションの根幹となる。

口唇裂・口蓋裂の例では、明瞭なことばを獲得し、整容的にも心理社会的にも問題のない社会生活を送ることをゴールとして、乳幼児から成人に至るまで治療が行われる。術者（口腔外科／形成外科）、言語、歯科、耳鼻咽喉科、小児科、心理、看護および教育・保育などの多職種連携体制は、一九五〇年代より包括的治療の重要性が提唱され、口蓋裂専門外来のある大学病院などのチームによる治療がなされてきた。

近年では、専門外来のある施設のみならず、必要に応じて地域の医療機関との施設間連携が行われるようになってきている。また、言語聴覚療法においても、対象者の居住地に近い施設で、高頻度の構音訓練を確保するためなどの理由で、基幹施設と連絡を取りながら、医療・福祉・教育機関などの施設で、施設の枠を越えた言語聴覚士間での連携が展開されてきている。

院内連携では、直接意見を交換し、治療方針などを決定し治療が行われる。施設間や言語聴覚士間での連携では、異なった施設での治療が展開されていくので、情報共有などが必要である。しかしながら、連絡を取ってはみたものの、意見交換や連携が取りづらいなどの声が散見され、どのように治療を進めてよいかと苦慮する場合もあると聞く。

治療方針が一貫していないと、言語聴覚療法の対象者や家族への影響が懸念される。円滑な連携こそが、治療の質を確保し、その結果、対象者と家族のQOLの向上につながる。連携の困難さを打破するためには、連携する担当者同士がコミュニケーションをとり、課題や問題解決に必要な手続きを共有し、対象者本人や家族も一緒に治療を進めていく必要がある。

今、連携をスムーズにするために言語聴覚士に求められていることは、質の高いコミュニケーションである。日頃、臨床現場などで困っていることを忌憚なく話す仲間を増やすことが必要である。そのためには、施設を横断した情報交換などを活発に展開するのみではなく、顔が見える場（研究会や学会など）に参加し、悩んでいることや自分はどのように取り組んでいるかなどを協議することが必要であろう。自分が行っている介入が対象者の症状に適応しているのか？　など、検証しながら治療を担うことが、対象者や家族のみならず、言語聴覚士自身のQOLも高めていくと考えている。

（倉重こどもクリニック）

子育てから考える生活力を育てることの重要性

杉山久仁子

日本では仕事と育児の両立を支援する制度がジェンダーにかかわらず実施されており、ユニセフ「先進国の子育て支援の現状」（二〇二一年）では、育児休業制度が四十一か国の中で一位と評価されているが、女性の約三分の一程度である。また、取得期間は、女性は十か月から十八か月未満が約六割、男性は少しずつ長くなってきているものの、一か月未満が約六割である。

総務省「令和三年社会生活基本調査」の六歳未満の子どもをもつ世帯内・家庭内の子育てを含む家事関連時間の状況では、一日に家事関連（家事、介護・看護、育児、買い物）に費やす時間は、共働き世帯で、夫は一時間五十五分、妻は六時間三十三分、専業主婦世帯で、夫は一時間四十七分、妻は九時間二十四分であった。夫は、共働き世帯と専業主婦世帯で変わらず二時間弱である。国際比較からは、日本は家事関連時間の男女差が他国より大きいことが明らかになっている。

日常的に家事関連にかかわっていない人が、子どもの出産を機に子育てに携わることは困難も多く、夫婦ともに育児休業中にストレスを感じていることなども報告されている。

日本では、若年層を中心に固定的性別役割分担意識に賛成する割合は減少しており、二〇一九年の内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」では三五％と過去最少であった。女性の就業継続を支持する考えをもつ人が六割に増加しており、家庭内の家事関連へのかかわり方も偏りが縮小していく方向が期待できるようになっていると思われる。

日本特有の固定的性別役割分担意識を弱めるためには、家庭内での考え方を変えていくことが必要であるが、親から子へ家事に対する考え方が引き継がれる状況では難しい部分がある。社会状況や家族のあり様が変化していく中、意識を変えるためには学校教育が重要である。そのことを証明するものとして、明治大学の原ひろみ教授らが「中学校『技術・家庭』の男女共修化には、性別役割分担意識を弱める長期的な効果があった」という論文を二〇二三年に発表している。中学校「技術・家庭」が男女別学から男女共修になったのは一九九〇年である。性別で、社会的な役割が異なると生徒に認知させないような教育カリキュラムや学校における活動が重要であることが示されている。

二〇二三年十二月には、こども未来戦略」が発表され、子育てに関する支援が今後も推進される。家庭科では、家族・家庭、衣食住、消費や環境などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現を目指している。家庭科の小・中・高等学校の発達段階に応じた系統的な学びを保障し、学校教育の中で生活を工夫創造する資質・能力（生活力）を育成できるよう、学校現場の先生方と共に取り組んでいきたい。

（横浜国立大学教授）

保育の中に身体表現遊びの喜びを広げたい

岡澤哲子

私は、一九八三年に関西で発足した「表現運動・ダンス指導者研究会」の幼稚園・保育所部会のメンバーとして二十年以上前から研究活動を続けています。幼稚園教諭・ダンサー・大学教員などの身体表現大好き人間たちが、主に保育現場の先生方対象の実技講習会に向けて、月一回程度集まりワイワイ楽しみながら情報交換や乳幼児の身体表現遊びを考案しています。

私は元々身体表現が決して得意というわけではなく、大学生時代の身体表現の授業は苦痛でした。「落ち葉」の表現が課題だったときのことです。前日の夜まで悩みながらつくった動きを授業で発表し、先生から評価をされました。このことに対して、『落ち葉』にかかわる体験はみんな違うのに、自分は何を評価されたのだろう?」と、身体表現に苦手意識をもっていた私がはじめて抱いた疑問もありました。

先述の研究会のメンバーは経歴や世代が異なる集団のため、得意も不得意もそれぞれです。「○○さんのように素敵に動きたいけれど、いまさら自分は追いつけないな」と悩んでいたとき、メンバーから「○○さんはイチロー選手で、岡澤さんは松井選手なんですよ」という忘れられない言葉をもらいました。イチロー選手も松井選手も、プレースタイルは違うけれども、それぞれ心に残るすてきなプレーをする選手です。そうです。身体表現には上手とか下手とかがなかったのです。

身体表現は人の心のスケッチです。例えば、年長児が手にもった星形を自由に動かし、年少児がその星型にタッチをする遊びで、年長児は腰をかがめて、満面の笑顔でゆっくり手を動かします。そんなとき、保育者は「やさしく動いてあげているんだね」と年長児に声かけをします。

身体表現遊びでは、双方向に気持ちを寄せたり、言葉をかけ合ったりすることで、自分の心のスケッチを生き生きと表現し、自分の存在を確かなものとして意識できるようになります。双方向性を内在している遊びは生きる力の基礎になっているように思います。

今なら、大学生時代のように「落ち葉」の形態の表現に対して上手い下手にこだわるのではなく、自分が感じた「落ち葉」そのものになって身体感覚や心の揺れ動きを楽しむことができます。

どんな遊びも身体なくしては遊べません。遊びの喜びや快感は、身体の感覚や心の揺れ動きから得られるからです。それを意識しながら、最近では自分でネーミングした「ドッキング身体表現遊び」というものを考えています。例えば、カラースカーフを使った遊びでは、子どもたちが友達のスカーフをつなげて長縄のように回して跳ぶ姿や、広げたスカーフ越しに天井のライトを見て「なんか違う！　きれい！」と興奮するなど、生き生きとした姿をみせてくれます。子どもたちの表現や発見・気づきが、いくつもの保育の領域を包含した総合的な体験であることに驚かされるのです。

今後も、魂がワクワクする自分を感じながら、身体表現遊びの喜びを保育の中に広げていくことを続けたいと思っています。

（帝塚山大学名誉教授）

教科書ご採用検討のための見本が入用でしたらご請求下さい。

芳名・ご住所・学校名・科目名を明記の上、お申込み下さい。**（ご採用見本は教科書のみです）**

当社HPからも見本請求いただけます。

ご勤務先・ご所属等が変わられましたら、当社までお知らせ下さい。なお、ご自宅の住所をご教示頂けましたら、本紙「土筆」をご自宅宛にお送り致します。

tukusi@kenpakusha.co.jp（個人情報は厳密に管理致します）

シリーズ監修　内山量史・内山千鶴子・池田泰子・髙野麻美

クリア言語聴覚療法（各巻B5判）

・「言語聴覚療法シリーズ」を全12巻に再編し全面刷新！
・国家試験出題基準、養成所指定規則に準じた最新版
・すっきりと見やすいレイアウトで入門テキストの決定版！

①言語聴覚障害総論　内山量史・鈴木真生　編著　3960円
②失語症　大塚裕一・宮本恵美　編著　3300円
③高次脳機能障害　浦野雅世・外山　稔　編著　4180円　1月刊予価
④言語発達障害　内山千鶴子・後藤多可志　編著　3520円
⑤小児発声発語障害　佐藤亜紀子・緒方祐子　編著　3740円
⑥成人発声発語障害　椎名英貴・中山剛志　編著　4180円
⑦吃音・流暢性障害　池田泰子・坂田善政　編著　4180円
⑧音声障害　石毛美代子　編著　3520円　1月刊予価
⑨摂食嚥下障害　稲本陽子・髙野麻美　編著　3960円
⑩聴覚障害　佐藤紀代子・長谷川純　編著　5170円　1月刊予価
⑪地域言語聴覚療法　内山千鶴子・黒川容輔　黒羽真美　編著　3300円
⑫言語聴覚療法管理学　内山量史・高野麻美　白波瀬元道　編著　予価未定　2025秋刊行

採用者特典　図表のデジタルデータを提供、講義資料作成に活用できます。

近刊案内

（令和7年1月～4月刊行予定。予価　頁数等は変更する場合がございます。）

教職ライブラリ　**生徒指導・進路指導論**　住本克彦　編著　B5　160頁　予価2530円
はじめて学ぶ　**子どもの福祉**　和田上貴昭・野島正剛　編著　A5　192頁　予価2310円
はじめて学ぶ　**子どもの養護**　和田上貴昭・坪井　真　編著　A5　208頁　予価2310円
改訂　疲学・保健統計　車谷典男　監修　松本泉美・文鐘聲　編著　B5　264頁　予価3850円

近刊専門書

フードケミカルバイオロジー　日本栄養・食糧学会　監修　山崎正夫・藤村由紀・榊原啓之・立花宏文　編著　A5　250頁　予価4730円
災害福祉研究　―防災・復興の福祉とレジリエンス―　都築光一　著　A5　352頁　予価4950円
共生を考える　小山　望・江島尚俊　編著　A5　208頁　予価2420円
根付く・伸びる・発展することもの遊び　―主体性をはぐくむ保育の方法とICTの活用―　宮城教育大学附属幼稚園　編　B5　120頁　予価2200円